第三回The World Meeting of Popular Movements　教皇フランシスコ挨拶

Vaticanオーディエンス・ホール

2016年11月5日

原文は[ここ](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2016/november/documents/papa-francesco_20161105_movimenti-popolari.html)　半訳　by齋藤　20191214

（日本語では意味のとり難い箇所を赤字で示した。）

兄弟姉妹の皆さん、こんばんは。

この三回目の会議でも私達はこれまでと同様、voice (発言権)を行使しました。渇望、justiceを求める渇望、即ち「万人にland, work and housingを」との叫びの声をあげました。

お集まりの代表者の方々に感謝します。五大陸、60カ国以上の地域から、会議の目的であるこれらrightsのdefendを如何にして遂行するか、話し合うためにお集まり頂いた方々に感謝します。同行してくれた司教達、今回の結論を確かめに参加した欧州とイタリアから来て下さった何千人もの方々にも感謝します。傍聴の方達、静かに耳を傾け学ぼうとする社会人のyoung peopleにも感謝します。young peopleこそ希望だと私は考えています。タークソン枢機卿、貴方のdicastery（市民評議会）のお仕事にも同様に感謝します。また、お見えになった[ホセ・ムヒカ](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9B%E3%82%BB%E3%83%BB%E3%83%A0%E3%83%92%E3%82%AB)前ウルグアイ大統領の多大な貢献にも言及したいと思います。

南米から多くの参加を得た[ボリビアでの前回会合](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2015/july/documents/papa-francesco_20150709_bolivia-movimenti-popolari.html)で私達は、change、特に社会構造のchangeが文化的生活普及の鍵となっていることを話し合いました。皆さんのpopular movementsがchangeの種蒔く人となって、大小様々な幾つものactionsから成るその過程をどの様に進めていくのか、話し合いました。それは一編の詩の中の言葉達のように、相互につむぎ合って新しいものをつくり出します。だから私は皆さんを”social poets”と呼びたいと前回会合で申し上げました。無関心のglobalizationに対してa humane alternative（訳補遺、人道的選択肢：国境を跨いだ難民保護など）の構築へと向かうのに必要な三つのtasksも前回リストアップしました。即ち、(1) 経済がpeoplesに奉仕するようにする、(2) peace and justiceの為にworkする、(3) 母なる地球を守る、の三つのtasksです。

前回、Cartonera（訳注：2003年アルゼンチンから世界中に広まった社会・政治・芸術批評運動）とCompasino（訳注：働く仲間、農民）の仲間が、結論を読み上げてくれました。Santa Cruz de la Sierraの十項目。”change”の言葉の意味を余すところなく表してくれました。それはまた皆さんの基本的要求にもつながっています。即ち、労働市場から排除された者達の為の尊厳ある雇用、Compasinoと原住民のためのland、住まいのない家族のための住居、困窮隣人を含めたurban integration、差別・女性に対する暴力・その他新しい隷従形態（new forms of enslavement）の撤廃、全ての戦争・組織的犯罪・自由抑圧の終結、表現の自由と民主主義的話合い、科学と技術をpeoplesに奉仕させるようにする、という基本的要求です。また皆さんが、消費主義を拒絶し、solidarityと相互愛と自然を大切にする心を基本的価値観として取り戻すという生涯展望を育もうとしている、このことも聞きおよんでいます。即ち、皆さんが望んでいるのは”living well”の幸せであって、“living the good life”のphraseの内に欺瞞と利己的考えによって具現化するものではありません。

今日ここに集まった私達は、出身地も信条も考え方も様々であり、全ての点において同意するわけではないかもしれません。確かに多くの事柄に異なる考えを持つでしょう。しかしこれら重要項目について私達はハッキリと合意できています。

様々な地域でmeetingsやworkshopsが開催され、それぞれのcommunity状況の視点から様々なdiscussionsが行われていることも私は気づいています。この活動はとても重要です。というのは、諸々の今日的問題の本当の解決策は、conferencesを一つや三つ、あるいは何千と開いても決して得られないからです。そう、その地に根づき兄弟姉妹と共に成熟させたa collective discernment（訳注：無理に訳せば「宗教的・共同体的集団によるrighteousness識別」。ちなみにcollective self defenseを集団的自衛と一般に和訳しているがこれは誤訳。しかも大きな災いをもたらす誤訳。）の果実こそが、解決策であるに違いないからです。聖イグナチウスの言葉を借りるならば「場所と時間とpersonsによって」変幻自在に形を変えるactionを導くdiscernmentです。そうしなければ私達は単なる抽象化の危険を冒すことになります。「規範を宣言すれば良しとする者達が記す立派な文言（declarationist nominalisms that are fine phrases）では、私達のcommunityにおける生活は維持できない」（[*Letter to the President of the Pontifical Commission for Latin America*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/letters/2016/documents/papa-francesco_20160319_pont-comm-america-latina.html)）のです。それは単なるスローガンに過ぎません。即ち、植民地主義というグローバル化したイデオロギーは、超文化的レシピで横車を押そうとしますが、それではpeoplesのidentityは尊重されません。皆さんはそれぞれのルートをるのです。それは地域によるもの普遍的なもの色々あるでしょう。私が思い出すこの種のルートの一つは、集まった聴衆にイエスが、パンの分配の為に50人ずつのグループになるように願ったことです。（2004年6月12日ブエノス・アイレス、キリストの体の祝日、説教）

最近、ビデオ会議で皆さんと一堂に会すことが出来るようになりました。この第三回会合では結論部でこれを利用しました。「暴力を引き起こしてしまう格差」に如何に対処するのか、debatesの間中皆さんの顔を見ることができました。沢山の提案、沢山の創造、沢山の希望が皆さんのvoicesには込められていました。皆さんは、恐らく不満の思いをいっぱい抱え、紛争事に巻き込まれ、める誘惑に負けそうになったことでしょう。しかし皆さんは未来を見据え、熟考し討議し提案し、そして実行してきました。皆さんを讃えます。皆さんと共に私はいます。道を照らし続けて下さい。そしてfightし続けて下さい。これが私を力づけます。私達全員を力づけます。私達のこの対話が、この地上世界のjusticeの為に日々活動している何百万ものpeoples全ての努力と合わさって、根づいていくと信じます。

皆さんから受けとった特定の幾つかの問題について若干触れたいと思います。考えさせられました。今度は皆さんに戻しますので考察を更に深めて下さい。

一番目の重要ポイント：テロと壁

構想を練るプロセスは常にそうですが、着想を得るまで時間を要します。そうしているあいだに、迫り来る破壊のメカニズムによって脅威にさらされます。マネー中心主義を置き換え、男も女もhuman beings（人間の霊的・地上的な存在）を社会構造の中心に据え直すことを目指す、この革新的変革プロセスについても、これを無効化しようとする強制権力が幾つも現れます。この様な「見えない糸」についてボリビア会合でお話ししました。不正義の社会構造に張り巡らされ、皆さん体験済みの様々な形の排除を連携させる「見えない糸」。これは時に硬い糸となり鞭（むち）となります。旧約聖書のエジプトにあった様な、人の自由を奪い奴隷にするためのan existential whip（地上的存在に対する鞭）となります。鞭は人々に常に恐怖を与え、時に幾人かに無慈悲に振るわれます。それは人々の群れを、まるで牛の群れの暴走のように、お金の神が望む所ならどこへでも向かわせるのです。

何がgovernしているのでしょうか？ そうmoneyです。では、どうやってmoneyはgovernするのでしょうか？ そう、恐怖の鞭、格差の鞭、経済的鞭、社会的鞭、文化的鞭、軍事暴力の鞭によってgovernするのです。それは更に恐ろしい暴力の連鎖を、株価暴落の様に止めどなく続けます。何という痛み、何という恐怖！　最近私が言ったように、ここには基本的にterrorismが巣くっています。地上世界に蔓延したoverall control of money（金銭の全権支配）によって生み出され、人類全体に脅威をもたらすterrorismが巣くっています。この基本的terrorismが、麻薬テロリズムや国家テロリズム、そしてどのpeopleもどのreligionもterroristになりようがないのですから言葉の誤用ですが、民族テロリズムや宗教テロリズム、これらの様な派生形態を生み出します。確かに、その様などのグループにも小規模な原理主義者達はいるでしょう。しかしterrorismとは「人々が創造の奇蹟、男と女の創造の奇蹟を放逐し、そこに代わりにmoneyを据えたとき」([*Press Conference on the Return Flight from the Apostolic Journey to Poland*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2016/july/documents/papa-francesco_20160731_polonia-conferenza-stampa.html), 31 July 2016)、始まります。この様な（訳補遺；moneyによる）systemこそterroristicと呼ばれるのです。

約百年前、教皇ピオ11世は或る種のglobal economic dictatorshipを予見し、それを「金融の国際帝国主義」（[*Quadragesimo Anno*](http://w2.vatican.va/content/pius-xi/en/encyclicals/documents/hf_p-xi_enc_19310515_quadragesimo-anno.html), 15 May 1931, 109）と呼びました。それは1931年のことです！　また私達は今パウロ6世講堂にいますが、このパウロ6世も約50年前、「社会、文化、更に政治レベルにおいて、経済が支配力を持つのは新たな形の権力濫用である」（[*Octogesima Adveniens*](http://w2.vatican.va/content/paul-vi/en/apost_letters/documents/hf_p-vi_apl_19710514_octogesima-adveniens.html), 14 May 1971, 44）として非難しました。これら私の先任者達の言葉は辛辣ですが当を得ています。彼らは災厄が来るぞと警告してくれたのです。教会と預言者達は何千年間も様々な警告を発してきました。そのたびにscandalousと思われてきました。しかし今、教皇としてこの警句を繰り返すのは、この恐ろしい現象が遂にかつてない規模で襲ってきたからです。教会の社会教説と私の先任者達の教導権は、金銭の偶像崇拝を拒否してきました。人に奉仕するのでなく人を支配する、人類を恐怖により操り専横を行う、その様な金銭の偶像崇拝を拒否してきました。

実は、私達が恐怖（fears）に駆り立てられなければ、tyranny（虐政独裁）は存続しません。これは重要です。つまり、tyranny（虐政独裁）とはterrorismの一形態なのです。即ちこの様なterror（訳注：仕掛けられた恐怖）が、それは当初、町外れに虐殺や略奪や弾圧などの不正義として種蒔かれますが、それが都市の中心部で爆発し卑怯卑劣極まりない様々な形態の暴力となるとき、僅かな正気を保っていたcitizen達でさえも物理的・社会的「壁」によるの安全の誘惑に負けてしまうのです。しかし壁は、幾人かは囲い込みますが、他の人達を閉め出します。即ち壁の中に囲われたcitizensは恐怖の罠にはまってしまい（terrorized）、更に、閉め出された他の人達は生活の場を奪われ恐怖の罠にひきずりこまれていきます。こんな生き方を、私達の父なる神がその子供達に望んでいるはずがないと思いませんか？

この場合、恐怖（fear）は、なのです。巧妙にまかれた…。恐怖は、武器商人・死の商人にとって良いビジネスチャンスとなるだけでなく、私達を弱気にし平常心を失わせます。心理的・精神的防御力を破壊し、他者の困窮を感じなくさせてしまいます。最後には残虐へと駆り立てます。迷子になったためか路上で死んだ若年者の死に歓声を上げる人々、平和よりも戦争を好む人々、外国人排斥運動の広がり、忍耐の無い考え方が支持率を上げる風潮、これら拡大する残虐性の陰には、恐怖という悪魔の冷たい息づかいが潜んでいます。だから私は皆さんにお願いします。これら恐怖におびえている人達のために祈ってください。彼らに神が強さを与えてくださるよう祈りましょう。そしてこの*Misericordia*の大聖年に、私達自身の心も安らかとなるよう祈りましょう。*Misericordia*を得るのは容易くはありません。簡単ではありません…。それには勇気が必要です。だからイエスは私達にこう教えます。「恐れるな」（マタイ 14:27）、恐怖の最良の解毒剤は*Misericordia*なのだから。それは抗うつ剤や不安を抑える薬よりももっとずっと良いはずです。壁、鉄格子、警報や武器などよりももっとずっと効果的です。しかもこれはfree（料金が掛かりません）。神からの贈り物だからです。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、全ての壁は朽ち果てます。その全てが朽ち果てます。だから皆さん、されてはいけません。また皆さんは、*Final Document of the II World Meeting of Popular Movements*, 11 July 2015, Cruz de la Sierra, Boliviaの中でこう述べていました。「peoplesの間に橋を、排除と搾取の壁を打ち破ることが出来る橋を、架ける仕事を継続しなければならない」と。そう、terrorにはloveでもって向き合いましょう。

二番目の重要ポイント：love and bridges

福音書が教えるところによれば、今日のような安息日にイエスはご自身を死へと向かわせる陰謀を引き起こすことになる二つの行為を行っています。或る安息日、イエスが弟子達と麦畑の中を歩いていました。弟子達はお腹がすいていて麦の穂を食べてしまいました。その畑の所有者が誰なのか福音には書いてありませんが…ここにはthe universal destination of goods（地上世界における財の万人による使用）の説明が奥底になされています。一つ確かなこと、それは、空腹を訴える弟子達にイエスは、規則を厳格・決疑論的・文言通りに解釈するのでなく、神の子供達の尊厳（the dignity of the children of God）を前面に据えたことです。これに対して律法学者達が偽りの義憤を示し文句を言います。するとイエスは、神は安息日に犠牲でなく愛を望んでいる、安息日は人間の霊的・地上的存在（human beings）のためにあるのであってその様な人間存在が安息日のためにあるのではない、と説明しました。（マルコ 2:27）イエスは、彼らの偽善的・独善的考え方、神の御旨の皮相なunderstandingに立ち向かいました。（cf. *Homily at the I Congress of Evangelization of Culture*, Buenos Aires, 3 November 2006）神の御旨は常にpeople firstです。即ち、生き・愛し・隣人に奉仕する為にpeopleが持つfreedomを阻害しようとする考え方を、神は一切容認しないと説きました。

更にその同じ安息日にイエスは「より悪い」とされる或ることを行いました。即ちイエスを監視し罠にはめる口実を探していた偽善と尊大の律法学者達を、更にたせることを行いました。そう、或る男の萎えた手を癒やしたのです。手は、work, laborの力強いsymbolです。つまりイエスはこの男のability to workをrestoreした。彼のdignityをrestoreした。さて現在、なんと多くの萎えた手があることでしょうか！ なんと多くのpersonsがthe dignity of workを奪われているでしょうか！ その原因は、偽善者達が自分達のunjust systemを守るために、彼らを回復させることを拒んでいるからです。時々私はこう考えることがあります。即ち皆さんが困窮者達を組織化し、自分達で自分達のworkを創り出すとき – 具体的には、cooperative（協働組合）を設立する、倒産した工場を再興する、リサイクル活動によって消費社会に反対する、風雨に立ち向かいながら露天商を続ける、飢えに苦しむ者達に食物を供するために農場一区画を要求する – その様なとき皆さんはイエスを見習う良き弟子となっている、と。なぜならその時皆さんは、その行いは未だ小さく始まったばかりかもしれませんが、現行社会経済システムの萎縮、つまり高い失業率を癒やそうとして頑張っているからです。だから私は全く驚きません。皆さんがイエスのように（訳補遺：国家当局からも保守的宗教者からも）監視され迫害されていても、あるいは、皆さんの発言に見栄や虚栄心が全く無いことにも、私は全く驚きません。

その安息日以降、イエスはご自身の命を危険にさらすことになります。即ちイエスが或る男の萎えた手を癒やしてあげたその日以降、ファリサイ派とヘロデ派の人々（マルコ 3:6）、つまりthe peopleを恐れる一派とローマ帝国を恐れる一派は、互いに反目し合う勢力でありながらイエスを殺すことでは結託し殺害計画を立案し始めました。皆さんも、命を危険にさらしながら頑張っていることを私は承知しています。ええ、良く承知しています。そしてこう言いたい。今日この集いに参加できなかった人々、実際に命を懸けたために…。でも皆さん、自分の命を差し出す以上の愛はありません。これこそイエスが私達に教えて下さったことです。

The three Ts [tierra, techo, trabajo]、つまりland, house, work。私も共有するこの叫びは、ましくも強い癒やしのに立つ風合いを帯びています。つまりthe wall-project of moneyではなくthe bridge-project of peoplesです。このprojectはintegral human development（高次統合人類発展）を目指します。既に御存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私達の友人タークソン枢機卿がこの名前: Integral Human Developmentのついた市民評議会（dicastery）を率いていくことになります。developmentの反対語はatrophy（萎縮）あるいはparalysis（麻痺）と言えるでしょう。私達は助け合って、倫理的に萎縮したこの地上世界を治療しなければなりません。何故ならこの萎縮systemは、上辺だけの美容整形移植を数多く準備しているからです。真のdevelopmentではない、経済成長、技術優位性、有効需要を持つ製品生産「効率」の向上、使っては捨て使っては捨て…遂には存在否定の竜巻に私達全員が巻き込まれていきます。この様な地上世界では真のdevelopmentは実現不可能です。真のdevelopmentとは、人間の霊的・地上世界的存在が持つintegrityによるdevelopment、即ち、消費主義や少数富裕者幸福に還元されないdevelopmentです。全てのpeoplesとindividualsを彼らの十全なdignityの中に包摂し、諸々の兄弟姉妹達を創造の奇蹟として歓待するdevelopmentです。このdevelopmentこそ私達が必要とするものです。キーワードを言えば、human, integral, respectful of creation, respectful of this common homeということです。

もう一つの重要ポイント：破綻と救済

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、更に二つの事柄について考察を共有したいと思います。先述のthree Ts (land, work and housing)とintegral ecologyと並んで、ここ数日間の皆さんのdiscussionsで中心テーマであり、人類の歴史の今現在にとっても中心テーマとなる事柄について考察を共有したいと思います。

移民・難民・移住を余儀なくされたpersonsの窮状について皆さんが丸一日かけてdiscussionなさったことを承知しています。この惨状に直面して私達には何ができるでしょうか。先述のタークソン枢機卿が率いることになる市民評議会には、こういった事態に対処する部門が含まれています。私は決めました。少なくも暫定的に、この部門を教皇直轄とします。というのは、[Lampedusa: a disgrace](https://www.theguardian.com/world/2013/jul/08/pope-globalisation-of-indifference-lampedusa)を目の当たりにした私の口から自然に出てくる言葉でなければ描写できない恥ずべき事態があるからです。Lampedusa でも[Lesvos島](https://www.theguardian.com/world/gallery/2016/apr/16/pope-francis-europe-visits-lesbos-in-pictures)でも私は感じましたが、とても多数の家族が経済的理由やその他色々な暴力的行為により自分達の土地から離れざるを得ない事態になっています。群衆となった難民達が、自分達のhomelandから根こそぎ引っこ抜かれた苦痛を、歯を噛みしめながら耐え忍んでいます。先般、世界中のリーダー達を前にして私が申し上げたとおり、この事態は、不正義の社会経済システムと武力衝突の当然の帰結です。またこれら現行社会経済システムと武力衝突のどちらも、本来の土壌から引っこ抜かれ苦しむ者達に非があるのではなく、今現在彼らの受け入れを拒否する者達によって引き起こされたものなのです。

私の兄弟であるギリシャ正教のイエロニモス大司教の言葉を繰り返します。「難民キャンプで出会った小さな子供達の瞳の奥底に見入ったものは誰でも一瞬で、the ‘bankruptcy’ of humanity（人道の｢破綻｣）を、そのものズバリを、感じ取るに違いない」（[*Address in the Moria Refugee Camp*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2016/april/documents/papa-francesco_20160416_lesvos-rifugiati.html), Lesvos, 16 April 2016）。この地上世界で今、例えば或る銀行が破産したと言えば直ぐにとんでもない金額のお金が補填されるというのに、この様な人道の破綻に対しては悲痛に暮れる兄弟姉妹達を救うために、その千分の一の資金も拠出されることがないというのは、一体全体どういうことでしょうか？ 地中海は今、墓場と化しています。地中海だけではありません。れなき血の中に幾つもの壁が築かれ、その壁の脇に幾つもの墓場ができています。この会合の期間、ビデオ会議で私は尋ねました。地中海でどれほど多くの人が亡くなったのですか？

恐怖は心をかたくなにし、血を流して苦しんでいる者達や自分とは違うが普遍的信条を持つ者達（other people）に目をくれることのない無情・非情をもたらします。私の兄弟である正教会コンスタンディヌーポリ総主教ヴァルソロメオス1世はこう言っています。「貴方を恐れる人は貴方の瞳の奥を見たことがない。貴方を恐れる人は貴方の顔を見たことがない。貴方を恐れる人は貴方の子どもに会ったことがない。彼らは、dignityとfreedomが恐怖と分裂を超克できることを忘れてしまった。彼らは、難民問題が単に中東や北アフリカ、欧州やギリシャの問題ではないことを忘れてしまった。この問題はこの世界の問題なのだ」（[*Address in the Moria Refugee Camp*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2016/april/documents/papa-francesco_20160416_lesvos-rifugiati.html), Lesvos, 16 April 2016）。

確かにこれはこの地上世界全体の問題です。誰も自分のcountryから避難せざるを得ない状況におかれてはなりません。それなのにこういう恐ろしい状況は起こります。更に悪いことは重なるもので、難民が国境を越えようとすると人身売買人の毒牙にかかってしまいます。三重苦もあり得ます。より良い未来を夢見て到着した土地で、まれ搾取され奴隷とされることさえあり得ます。何百という都市の街角でこの様な事態が起こっています。しかもこれでも良い方です。大半の難民は単に受け入れを拒否されるのです。

お願いします。できることは何でもして下さい。そしてイエス、マリア、ヨゼフも避難民の辛酸を経験したことを忘れないようにしましょう。困ったときはお互い様です。2014年WMPMで説明したspecial solidarityをこういう時こそ示して下さい。既に皆さんは、倒産した工場を再興し、other peopleが捨てた廃品をリサイクルし、雇用を創出し、自分達の土地で働き、住まいを建築し、分散していたヒスパニック地区を統合し、ルカ 18:1-8の福音にある「やもめと裁判官」の様に疲れることなくjusticeを求めて請願する、これらを行うことが可能だと示しました。皆さんのこの忍耐と努力が幾つもの国際機関・各国当局の目を開き、適切な難民受入の処置が講じられ、何らかの理由で自分達の土地を遠く離れ難民とならざるを得なかった者達全てのfully integrateが叶うことを信じています。そして、より深刻な理由で日々何千人もの老若男女が自分達の土地を離れざるを得ないという事態にも立ち向かうことができると信じています。

この様に具体例を一つ一つ挙げてadvocacyを行うことは政治に従事する者達の手法です。ということから、二番目の重要トピックに話を移します。既に皆さんもこの会合で話し合いましたね。そう、democracyとa people（訳注：或る一つの普遍的信条を共有する人々）との関係、の話題です。この関係は自然に湧き上がってくる流動的なものであるべきですが、そのままでは（訳補遺：当局によって）認識してもらえる程には具体的な形をなさないというriskがあります。そのため現行形態のdemocracyとthe peoplesとの間にあるbreach（契約不履行）の溝は深まるばかりです。現行形態のdemocracyは、強力な金融業界と大手マスコミによって支配されているからです。popular movementsは勿論、政治政党ではありません。敢えて声を大にして言えば、政治政党でないからこそpopular movementsは希少価値があり、public lifeにsocial participation（社会参加）するためのa distinct, dynamic and vital formを具現化できる。ですから皆さん、大文字でPがつく様なpoliticsにおける諸々のdiscussionsの大規模な場に、巻き込まれるのをわないで下さい。ここで再びパウロ6世の言葉を引用します。「Politicsは必要とされる方法の一つです。しかし、キリスト者として他者に奉仕貢献する生き方をする上で、これが唯一の方法というわけではありません」（[*Octogesima Adveniens*](http://w2.vatican.va/content/paul-vi/en/apost_letters/documents/hf_p-vi_apl_19710514_octogesima-adveniens.html), 14 May 1971, 46）もう一つ繰り返したい言葉があります。パウロ6世のものかピオ12世のものか分からないのですけれども、「Politicsはcharityの、あるいはloveの最も高次な形態の一つです」。

popular movementsとpoliticsとの関係の中に含まれる二点のriskについて指摘したいと思います。拘束衣を着させられるriskと、堕落・腐敗させられるriskです。

一番目のrisk。皆さん決してstraitjacket（拘束衣）を着させられてはなりません。言葉巧みにこう誘う人達がいます。即ち、生活協同組合（cooperatives）、子ども・困窮者食堂（canteens）、農業生態系を考慮した農園（agro-ecological gardens）、small businesses、福祉向上プログラム、その他、立派な口上の数々。確かに、この様な“social policies”の拘束衣に縛られているなら、あるいは、大文字でPがつく様なpoliticsやeconomic policyに疑問を持たないでいるなら、皆さんは（訳補遺：国家当局に）容認してもらえるかもしれません。また確かに、この様なsocial policiesの考え方はfor the poorであるかもしれません。でも決して、with the poorでもof the poorでもありません。ましてやpeopleを再び、共に在る者達（together）にするprojectでもありません。私は時々、これらは現行経済システムを拒む者達を放り込む為の、明るい色で塗り立てられた或る種ゴミ箱だな、と感じます。しかしながらもし皆さんが、隣人達の側に立ちそこに根を張る基礎を持つならば、即ち、皆さんの日々の経験、ヒスパニック居住区や自分達の地域、皆さんのcommunity workの為のorganization（有機的組織）、皆さんのone-on-one relationships、この様な基礎を持ち、“macro-relations”（マクロ経済学における人と人との関係性）に敢えて疑問を投げかけ、抗議し、声を挙げて権力者達（the powerful）にもっとintegralな解決方法があると指摘し続けるならば、皆さんは（訳補遺：国家当局に）容認してもらえなくなります。拘束衣を脱ぎ捨て、身分（castes）の高い少数者だけが厚かましくも独占する数々の重大意志決定の領域に踏み込むことになります。この様な身分制では、democracyは萎縮し単なる標語あるいは単なる形式となります。民意を代表するという特徴を失い具体性を欠くものになります。何故ならそれは、自ら未来を切り開きdignityの為に日々struggleするthe peopleを、除外したものだからです。

the excluded（その様に除外された人々）が集うorganizations（諸々の有機的組織）としての皆さん、また、他の社会セクターから集う多種多様なorganizationsとしての皆さん。皆さんはdemocracyを、今正に危機のただ中にあるdemocracyを、再生し作り直すよう召命を受けています。ですから、拘束衣の誘惑に負けてはなりません。それは皆さんを舞台裏のエキストラ役におとしめ、もっと悪いことに、現代の惨状を単に管理するだけの行政官にしてしまいます。今のような麻痺・方位喪失・破壊的定型句の時代においては、共通善を求めるpeoplesのactive participation（積極的社会参加）ならば、神の助力を得て、ニセの預言者達に打ち勝つことができるのです。人を操るために恐怖と絶望を駆り立て、心ない憎しみの言葉や魔物の様な経済公式を言いふらし、利己的な繁栄や幻想に過ぎない安全保障を広めようとする、ニセの預言者達に打ち勝つことができるのです。

「貧しい人々の諸問題を抜本的に解決するために、市場と金融投機の絶対的自律性を拒否し、格差を生む社会構造の根本原因に敢然と立ち向かう。こうしない限り、地上世界が抱える諸問題は何一つとして決定的には解決されません。つまり格差は社会悪の根本的元凶なのです。」（[*Evangelii Gaudium*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html), 202） だからこそ私は次の様に発言しました。改めて繰り返します。「人類社会の未来は、大組織のリーダーや巨大権力やエリート達の手の中にだけあるのではありません。基本的にそれは、peoplesおよびpeoplesのability to organize（法律的に正当とされた有機的組織化能力）の手に委ねられています。そう、貴方方の手に委ねられています。またそうあってこそ、謙虚な信念によってこのchangeプロセスの行く末を導くことが出来るのです。」（[*Address at the II World Meeting of Popular Movements*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2015/july/documents/papa-francesco_20150709_bolivia-movimenti-popolari.html), Santa Cruz de la Sierra, Bolivia, 9 July 2015）The Churchも、真理を独占しているなどと主張していないで、正々堂々と意見を陳べ実行すべきです。またそうすることが出来るはずです。特に真正面から向かい合うべきなのは「様々な価値観、倫理観、社会科学、信仰が舞台に上がり、深い心の傷と大規模な激痛を抱えた現代社会の様々な困難状況」（[*Address to the Judges’ Summit on Human Trafficking and Organized Crime*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2016/june/documents/papa-francesco_20160603_summit-giudici.html), Vatican, 3 June 2016）です。さて、ここまで一番目のrisk：拘束衣を着させられるriskについてお話しし、高い水準のpoliticsにすることをお薦めしました。

二番目のriskは、corrupt（堕落・腐敗）させられることだとお話ししました。politicsが”politicians”だけのものでない様に、corruptionもまたpolitical lifeに限ったvice（訳注：virtueの反対概念）ではありません。politicsにcorruptionがあり、business worldにcorruptionがあり、通信メディアにcorruptionがあり、the churchesにもcorruptionがあります。ですからsocial organizationsにもpopular movementsにもcorruptionがあります。ただ、こう言ってcorrectだと思いますが、economic life特にfinancial activityの幾つかのspheres（領域、空間）には或る種の”naturalized”（帰化した）corruptionがあり、それはsocial and political lifeに直にリンクしたcorruptionよりも、報道メディアにおいてあまり衆目を集めないのでしょう。またこう言うのもrightだと思いますが、corruptionの多くは悪意（evil intention）によって操作されたものでしょう。しかしながらこの種のサービス業を選んだ者は、どのpersonも生涯持たねばならない正直さに加えて、更なるobligation（倫理的宗教的義務、訳注cf. duty：法律的義務）を課されている、というのもまたrightと言えるでしょう。即ち彼らのハードル（bar）は更に高く設定されています。つまりserviceを行うone（人間）は、禁欲と謙虚（austerity and humility）の感覚を強くもってvocation（自らにあてがわれた職業、召命）をliveするべきです。このことはpoliticiansにも当てはまります。更に私達自身、即ちreligious leadersやsocial leadersにも当てはまります。ここでausterity（緊縮、簡潔、厳格、禁欲）と言いましたが、これで何を言いたいのかもう少し分かりやすく説明しましょう。equivocal（意図的平衡表現）ととられかねませんからね。ここではmoral austerityを意味します。自らの生き方におけるausterity。私は私の人生と私の家族とどう過ごすのか、のausterity。つまりmoralとhumanを両立させるausterity。勿論もっと科学的な分野では、例えばもしお望みなら経済科学や市場に関する科学の分野では、austerityはadjustment（適合調整、緊縮）を意味しますが、これは今日の話題ではないので割愛します。

外見や物質的事柄に過度にとらわれている人、お金が好き、豪華な宴会、贅沢な豪邸、高価な衣服、豪奢な自動車が好きな人には誰でも私はこう助言します。心のについて考え、その様な愛着依存（attachments）から自由にしてくれるよう神に祈ってみよう、と。ただ、今日ここにお見えになっているウルグアイの[ホセ・ムヒカ](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9B%E3%82%BB%E3%83%BB%E3%83%A0%E3%83%92%E3%82%AB)前大統領の言葉を借りて表現してみれば…。そういう趣向をお持ちの人は誰も、どうか政治に関わらないで頂きたい。social organizationsにもpopular movementsにも関わらないで頂きたい。何故なら、そんなことをすればその人自身にも害を為すし周りにも迷惑。なにより、押し進めようとしているnoble causeを台無しにしてしまう。とにかくそんな御仁はこのセミナーに顔を出して欲しくない…といった感じでしょうか。

もしcorruptionの誘惑に遭遇してしまったら、austerity以上の対処法はありません。moralとpersonalを両立させるausterityで誘惑に対処するのが最善策です。付け加えるなら、austerityを鍛えるには具体例に学ぶのが一番です。そう、具体例の価値をってはいけません。それは何千の言葉よりpowerful。何千のパンフレット、何千の「いいね！」のツイート、何千のYouTubeビデオよりもpowerfulです。隣人奉仕に従事するaustere life（耐乏生活）は、共通善とthe bridge-project of the 3Tsをpromoteする最善の具体例を示しています。ですから諸々のリーダー達に、この様なmoralとpersonalを両立させるausterityの実践に倦むことがないよう、重ね重ねお願いします。また、全ての人にお願いします。リーダー達にausterityであることを要求しましょう。なぜなら、ここが肝腎なところですが、彼らにとってもそれが大きな幸福をもたらすはずだからです。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

リーダー達が臆面もなく腐敗と傲慢を公衆に晒すので、collective unbelief（集団的不信心）と投げやりな感覚が増長されています。恐怖を駆り立て人を操るevil system（悪の社会経済システム）。これを維持する恐怖のメカニズム（the mechanism of fear）が、肥え太るように餌付けされています。

結論を陳べたいと思います。peoplesになり代わり、また特に、いま困窮に苦しむ人々になり代わり、皆さんがservice, solidarity and humilityの生活を送ることで、fear（仕掛けられた恐怖）と戦い続けて下さい。将来沢山のmistakesをするかもしれません。私達は誰しもミスを犯します。しかしながらこの旅を頑張ってやり遂げるならば、さほど遠くない将来に豊かな実を結ばせることが出来るでしょう。再び強調しますが、テロに対抗する最善策は愛です。愛は全てを癒やします。皆さんの内幾人かは御存知だと思いますが、家族に関するシノドスのまとめとして、私は[*Amoris Laetitia*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20160319_amoris-laetitia.html)という使徒的勧告を書きました。英語で言うとThe joy of love。各家族内の愛についての文書です。と同時に、貴方が属するヒスパニック居住区という家族、貴方が属するcommunityという家族、貴方が属するpeopleという家族、そして、人類という家族の内にある愛についての文書です。幾人かに頼まれましたので、この文書の第四章｢結婚における愛｣をbookletにしてお配りすることにしました。皆さんが退場するときお配りする手はずになっていると思います。アッ、今からですか。どうぞ配って下さい。祝別します。そこには幾つか”helpful tips”が書いてあります。イエスの大切な教えを実践する上で役立つと思います。

[*Amoris Laetitia*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20160319_amoris-laetitia.html)では、故人となったアフリカ系米国人リーダーMartin Luther King牧師の言葉を引用しました。彼は常に、最悪の迫害と侮辱の中にあってさえ、兄弟姉妹愛を説きました。彼の言葉の幾つかを共有しましょう。「貴方方が愛の、その美と力の水準にまで登りつめるとき、貴方方はただevil systemだけを打ち倒そうとするようになる。このsystemに偶然によって絡め取られたindividualsを愛しながらも、このsystemだけは打ち倒さなければならないと思うようになる。（中略）憎しみには憎しみをという考え方は、ただこの宇宙における憎悪と悪のexistenceを強めるだけだ。仮に、私が貴方を殴る、貴方が私を殴り返す、これが続くとしたらどうなるか。お分かりだろう。この事態が無限に続くことになる。この連鎖は終わることがない。だから何処かで誰かが少しばかり良識（sense）を持たなければならない。それこそがthe strong person。そしてthe strong personとは、憎悪の連鎖、悪の連鎖を断ち切ることが出来るpersonだ。」 彼はこれを1957年に説きました。（[*Amoris Laetitia*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20160319_amoris-laetitia.html)、No. 118, *Sermon delivered at Dexter Avenue Baptist Church*, Montgomery, Alabama, 17 November 1957）

今一度、皆さんの働きと皆さんの今大会参加に感謝します。父なる神が皆さんと共に在り、皆さんを祝福し神の愛で満たして下さるよう祈ります。この旅の道すがら皆さんを見守って下さいますように。旅を続ける力が、それを必要とするとき皆さんに豊かに注がれ、悪の連鎖を断ち切る勇気が与えられますように。旅を続ける力、それは希望。また皆さん、どうか私のためにも祈って下さい。もし祈ることは出来ないという方がいらっしゃいましたら、その方はこういったことを既に御存知ですね。その場合、私のことを優しく思いやり、その幸せを願って下さい。ありがとうございました。